

長野県PTA新聞

発行
長野県PTA連合会
長野市旭町1098信濃教育会館内
TEL 026-235-4361
発行者/胡桃澤 公司
編集者/小嶋 和 好

ホームページ
<http://www.pta-naganokenet>
E-mail
office@pta-naganokenet

平成二十五年年度県P定期総会開催...
PTA広報紙コンクール結果...
新会長に聞く...
単P訪問...



孔雀蝶 高原や森林に生息しています。避暑を兼ねて探しに行ってみませんか？

ネットへの入り口は、こんなところにも!?

子どもをネットでトラブルにあわせるために、保護者ができることはいろいろあります。しかし、何をどうしたらいいか悩んでいる保護者も多いのではないのでしょうか？ 今回は、そんな保護者の声をいくつか紹介し、実際にできることを考えてみました。

最近の傾向

平成二十四年に県教委の心の支援室で行ったアンケートによると、子どもの携帯電話の所持率は、小学四年生で一・三％、中学一年生で五・六％、高校一年生で九八・七％に上ります。高一で所持率がグンと上がるのは、高校入学時に購入する子どもが多いからと思われそうですが、小学生・中学生でも携帯電話を所持する子どもも増えていきます。そして学年が上がるにつれて、携帯端末のネットの利用率も増加傾向にあるようです。それに伴い、ネットでのトラブルに巻き込まれる子どもが増えています。



話そう 決めよう そして守ろう 親子で約束

パソコン・携帯電話(ガラケー・スマホ)・タブレットはもちろん、携帯音楽プレイヤーや携帯ゲーム機などでも、簡単にネットの世界に入り込むことができます。ネットへの入り口は、一つではないのです。ゲームをしているだけだと思っていた子どもが、保護者の知らないうちに公共無線LANのフリースポットなどで、ネットとつながっているかもしれません。



携帯ゲーム機や音楽プレイヤー。え？ネットにつながるの？

子どもがそれで何をしているか知りまじょう。一緒に利用してみると、子どもの好みや関心事、価値基準が見えてきます。パソコン同様、携帯ゲーム機などにも、有害サイトへ接続できないように、フィルタリングサービスが利用できるものもありますよ。

もう持っているもの、今さら使っちゃダメとは言えないけど...

子どもに持たせる時点で、ルールを決めておく家庭も多いと思いますが、もう一度家族で相談して「我が家のルール」をしっかり決め直してみませんか？ ルールを破ったら使用禁止や没収など、毅然とした態度をとること。保護者自身もルールを守らないとダメですよ。

注意しても「みんなやってるし」と聞いてくれない...

友だちがしていることは、一緒にやりたいても、自分の子どもだけに注意をしても、友だちから情報が流出してしまうこともあるのです。そこで、是非、保護者同士も情報を交換し、どの子どもも注意ができるような環境を作りましょう。

とにかく口答え、売り言葉に買い言葉で...

「うるさい」と言われたり、聞かれないふりをされたり。最後は結局ケンカ。それでもあきらめなければいけませんよ。日頃からネットトラブルの事例を話題にしたりにして、危険について理解させ、判断する力を身につけてあげましょう。

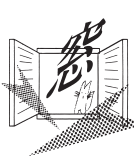
親もゲームはっぴり、子どもにも注意しつらいな、

何時間もゲームやネットをしたり、食事中でもメールをしたり、子どもは親を本当によく見ています。そして、親のしていることがその子の当たり前になってしまいます。子どもに注意するときは、保護者自身も自分のマナーをもう一度チェックしてみてください。

子どもの方が詳しく、聞いてもよくわからないんだけど...

最新のものはついていけなくて、なんて終わらせず、知ろうとしている姿勢を子どもに見せましょう。子どもに教えてもらうなどして、どんどん進歩していくネットの世界に関わり続けましょう。

テレビや新聞でも、IT機器の特集がたびたび組まれています。それだけ社会の関心も高く、子どもへの影響も大きいので、保護者の心配は、子どもがいろいろなトラブルに巻き込まれてしまうこと、善悪や危険・安全の判断ができ、自分を守れるようになるまでは、やはり大人が目配りしたいものです。



月に五〜六回の割合で近所の小学校や中学校、幼稚園、養護学校などを訪ね、読み聞かせのボランティアをしてみませんか？今年、中学校を卒業した我が子が保育園に入園した時から続けている活動です。何事もあまり長続き出来ない私が、飽きずどもたちの元を訪ねることが出来たのは、迎えてくれる子どもたちの笑顔のおかげだと思っています。活動を始めた頃、つい上から目線になりがちな自分、いつからか、子どもたちのことを友人に近い存在に感じ、地域に対しても一層の愛着を持つようになりました。そんな子どもたちと接していて、つくづく考えさせられるのは、彼らは、それぞれの家庭を象徴する存在として地域の中で暮らしているということです。子どもたちは、知らず知らずのうちに身に着けた言葉使いや人との接し方等、家庭での態度をそのまま学校や保育園に持ち込みます。時折、思わず手を止めて顔を見直してしまうようなことを、まったく普通の顔をして口にします。注意する私の顔を不思議そうに見つめていた子どもも、言葉や言葉が合わさって、共に成長していくことがボランティア活動の醍醐味だと感じています。(K・O)

僕たち! 私たち! がつがつしています!

信州の牛乳を飲もう!

長野県生乳生産販売委員会
信州 JA全農長野
長野県牛乳普及協会

毎年開催の料理コンクール受賞作品のレシピ等ご覧いただけます。 やっぱ信州の牛乳でしょ 検索

平成25年度 長野県PTA連合会定期総会

共通研究「心で向き合えていますか」～家庭で、学校で、地域で、共に育つために～

十一月の第三土曜日は信州「教育の日」

先生を「元気にする」ために 山崎会長
 信頼される学校づくりが重要 青木長野県
 行政・学校・地域一丸となつて進む 教育次長
 会 青木信濃教育
 専務理事

県PTA連合会は、五月三十一日、信濃教育会館において、定期総会を開催した。県内十六郡市代議員出席のもと、会長に胡桃澤公司氏が選任され、新役員と共にさらなるPTA活動の活性化を目指し、新たなスタートをきった。



冒頭の挨拶で山崎弘道会長は「いじめ、不祥事、体罰などの問題がクローズアップされる中で、子どもたちのために、生懸命取り組んでいる先生を支えるためにどうすればいいか? そのためには、PTAの仲間でもある先生をみんなで盛りだてていくなど、やるべきことがたくさんある。今こそ、同じ仲間として子どもたちを指導していただく先生を『元気にする』というのを一緒に考えてい

PTA憲章 「親のゆびきりげんまん」

子どもたちの健やかな成長を願って長野県PTA連合会が平成20年度に制定。

より良い子育てのための3つの行動目標

1. 家庭の中でしっかりと子どもと向き合おう
2. 積極的に学校に顔を出そう
3. 地域に感謝し、地域で子どもたちを育てよう

「心で向き合えていますか」と語り、来賓祝辞で青木弘道教育次長は「未来を担う子どもたちに、二十年後、どのような長野県を引き継いでいくのか? これからは、家庭・学校・地域が連携し、社会に開かれた信頼される学校づくりが重要である」と述べた。

続いて、青木信濃教育専務理事は「現在の子どもたちのおかれている状況の中で、共に考え、工夫し、少しでも改善し、

第23回 長野県小・中学校PTA広報紙コンクール

今年度は、81校(小学校60校、中学校21校)の応募があり、審査の結果14校が入賞の栄に輝いた。(☆が全国小・中学校PTA広報紙コンクールに推薦された)



受賞おめでとう!

受賞者の声
 行事の報告だけににならないように、記事のテーマ選びなどについて、いろいろな意見を出し合いました。ふりかえれば、それ自

審査員による講評
 読者はどんな話題を求めているのか、また、発行側としてどんなことを体がPTA活動だったのかかと思っています。(高山中P)

審査員による講評
 最終審査に残った広報紙は、どれも学校や子どもに対する思いがよく伝わった。甲乙つけ難い力作だった。

表彰を受ける高山中PTA

授賞式の様子

授賞者(最優秀賞)
 長野県教育委員会賞
 ☆高山村立高山中学校 P

授賞者(優秀賞)
 信濃毎日新聞社賞
 ☆上田市立塩田中学校 P
 日本グラフィックサービス工業会長野県支部長賞
 ☆松本市立開智小学校 P
 長野県PTA連合会長賞
 ☆松本市立鎌田小学校 P

授賞者(優良賞)
 ☆茅野市立永明小学校 P
 ☆池田町立池田小学校 P
 ☆佐久市立岩村田小学校 P
 ☆東御市立田中中学校 P
 ☆松本市立鎌田中学校 P
 ☆長野市立広徳中学校 P

授賞者(佳作)
 本曾町立三岳小学校 P
 塩尻市立片丘小学校 P
 長野市立後町小学校 P
 諏訪市立諏訪西中学校 P

長野県PTA連合会会長表彰受賞者

柳田 佳宏 (全佐久)	丸山今朝登 (安曇野市)
荒木 真志 (全佐久)	藤松伸二郎 (安曇野市)
久保田良政 (全佐久)	清水 肇 (天北)
南沢好恵 (上小)	長田りり (松本市)
中島 敏 (更北)	岡田英恵 (松本市)
森 芳之 (諏訪)	橋詰 弘巳 (松本市)
鹿角 幸子 (上伊那)	外谷 守 (上高井)
唐木 秀樹 (上伊那)	熊谷 真二 (中水内)
松原 永夫 (飯沼)	田中 哲郎 (中水内)
林 陽子 (飯沼)	高野 眞二 (上水内)
宮澤 賢司 (大地)	鈴木 善巳 (飯水)
上條 大地 (塩簗)	一木 昌子 (飯水)
原田 千方 (飯水)	山崎 弘道 (長野市)
倉福和明 (長野市)	東福寺裕子 (長野市)
三浦和弘 (長野市)	赤羽 聡 (長野市)
諏訪 順一 (教師幹事)	松澤 功 (教師幹事)
小滝 重信 (教師幹事)	待井 昌位 (母親幹事)
金田有貴子 (母親幹事)	和田 敦 (母親幹事)
田中富貴子 (編集委員)	編集委員

大切なお子さまのための保険です。

PTA小・中学生総合補償制度

ケガをした

通院1日目から補償

ケガをさせた

友達に大ケガをさせてしまった

病気で入院した

日帰り入院から補償※7日のみ

〇24時間いつでもどこでも補償します。
 〇個別加入に比べて保険料は約44%割安です。(注)
 〇保険料は年間3,000円からのパターンをご用意しております。
 (注)上記の割引率(約44%)は、この制度の被保険者数と保険金のお支払の状況によっては、今後変更となる場合があります。

元気すぎるから心配・そんな親心を支えます

引受保険会社: 共栄火災海上保険株式会社 お問い合わせ: 小中学生総合補償制度担当係
 電話: 026(234)2180

長野県PTA連合会が平成10年より導入している制度です。詳しい補償内容については、学校配布のパンフレットをご覧ください。

承認番号B1322820A0332-20130524

第12回飯田大会を、十一月十六日に飯田市鼎文化センターで開催します。

新旧会長に聞く

県PTA連合会は、山崎弘道前会長から胡桃澤公司新会長に引継がれた。山崎前会長には先生への思いを、胡桃澤新会長には抱負を語っていただいた。

先生とのかかわり

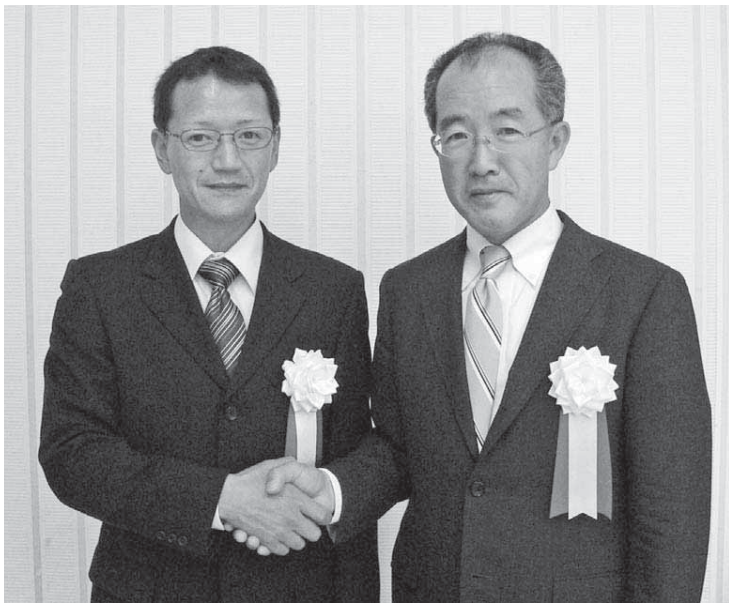
前会長 山崎 弘道

今ではもう成人した長男が小学校四年生になるときに、クラス替えがありました。当時はクラス替えは一回でした。

大きなことでは、先生は地域のドッジボール大会など、クラスの児童が出る行事には欠かさず顔を出し、子どもたちの活躍を見守り続けました。幾つもの地区があったの

で、大変だっただろうと思います。これを機に、親たちの先生への見方が変わっていきました。先生と子どもたちが話し合い、30人31脚の大会に出たいと決めたときも親たちは大賛成。練習時間をやりくりし、親たちもバックアップし、六年生まで毎年大会に参加しました。

このクラスに特別支援学級に在籍している子がいれば、参加はむずかしいのではないかと考えましたが、子どもたちは「みんなで一緒に走りた



握手でバトンタッチ 胡桃澤新会長(左)と山崎前会長(右)

い」と言い、最後の大会は全員で走り切りました。県予選二位で全国大会には行かれませんでした。後日親たちが県予選会場を貸し切り、再挑戦自分たちだけのラストランで、予選一位だったチームのタイムを抜きました。

先生と親たちの懇親会は、卒業後八年経っても続いています。次回は成人した子どもたちも一緒に飲む予定です。現在、いろいろな事情で元気を無くしている先生方がいます。私たちは仲間である先生方を元気にするために、PTAとしてできることを考えてみませんか。

PTAは子どもたちと会員の皆様のために

新会長 胡桃澤 公司

「PTAは子どもたちのために」とは、よく言われる言葉です。それはもちろん正解です。PTAは会員である保護者や教師の学びの場であり、そのために活動することが、つまりは「子どもたちのため」ということになりまし。

「PTAは子どもたちのために」とは、よく言われる言葉です。それはもちろん正解です。PTAは会員である保護者や教師の学びの場であり、そのために活動することが、つまりは「子どもたちのため」ということになりまし。

「PTAは子どもたちのために」とは、よく言われる言葉です。それはもちろん正解です。PTAは会員である保護者や教師の学びの場であり、そのために活動することが、つまりは「子どもたちのため」ということになりまし。

子どもたちと会員の皆さまのために「明るく、力強く」リーダーとしての役割を全うしていきたいと思っております。

「PTAは子どもたちのために」とは、よく言われる言葉です。それはもちろん正解です。PTAは会員である保護者や教師の学びの場であり、そのために活動することが、つまりは「子どもたちのため」ということになりまし。

平成25年度委員会活動

総務
小松 裕 委員長
(塩筑 塩尻西小)

広報
香山 保弘 委員長
(飯伊 松川中)

「PTA会員のため」を合言葉に、長野県PTA研究大会上伊那大会の支援や、財政に関する研究等「屋台骨」を強くする活動をしてまいります。

- 長野県PTA研究大会上伊那大会の企画・運営
- 会則・規約等と財政的諸問題に対する対応
- 都市Pの編成と県P組織の見直し

文字を通して、会員の皆さまへの的確な情報の提供を心がけます。各単Pでのホットな情報等がありましたら、是非お寄せ下さい。

- 長野県PTA新聞の発行
- 「よりよいPTA活動をめざして」の編集発行
- PTA広報紙コンクールの企画・運営と広報紙づくり研修会の支援
- 三行詩コンクールの企画・運営

都市P・単P支援
下城 武司 委員長
(上小 武石小)

父親母親
横内 和子 委員長
(松本市 附属松本中)

会員の皆さんが、楽しく積極的にPTA活動に参加できるよう、調査・研究を重ね、一緒に考えていきたいと思っております。

- 都市P・単Pの状況把握と活動し易い組織編成についての検討
- 都市Pの委員会活動の支援
- 単P役員研修会の企画・運営
- 研究委嘱事業の推進

共通テーマに沿った研究協議を、都市PTA母親委員長会とも共有しながら、学びの場を深めていきたいと思っております。

- 都市P母親委員長会の企画・運営
- 「陽だまり」の編集発行
- 共通研究テーマに沿った研究協議の推進

教育問題検討
瀧澤 聡 委員長
(上水内 信濃小中)

安全互助
山崎 弘道 委員長
(顧問)

教育に関する様々な問題を研究し、教育懇談会での問題意識の共有と解決に向けた取組を行います。

- 国や県・都市町村の教育改革に関する研究と対応
- 関係諸機関・他団体との連携
- 子どもの安全確保・有害環境の浄化に関する取組

PTA活動中の傷害事故・賠償事故への対策や、安全対策事業などにより、PTAの仲間をサポートします。

- 安全意識の高揚、安全講習会の開催
- 積立金による見舞金給付事業
- 損害保険会社との提携による補償事業

平成25年度長野県PTA連合会役員名簿

顧問	山崎 弘道 (北信母親)	伊藤 百恵
会長	胡桃澤 公司	富田 純子
副会長	(東) 下城 武司 (教師)	田中 敏子
	(南) 香山 保弘	小林 幸巳
	(中) 小松 裕	溝上 正弘
	(北) 瀧澤 聡	武藤 誠治
	(母) 横内 和子	高田 正樹
	(教) 木内 昇	田野口 さつき
専務理事	毛涯 二男	峯村 均
監事	(父) 宮下 繁明	小嶋 和好
	(母) 小倉 元美	青木 幸雄
	(教) 安原 哲夫	山岸 敬明
理事	(全) 井出 雄一	湯田 博
	(更) 埴 嘉夫 (母親)	宮下 びみ
	(訪) 阿部 孝司	木内 京子
	(上) 米澤 晋也	内藤 恭子
	(木) 原 浩志	伊東 貴世
	(安) 重田 大助	宮原 広美
	(大) 關 久男	久保 奈子
	(松) 的場 久仁男	高野 直樹
	(上) 青木 十郎	柳澤 真美
	(中) 湯本 義則	木下 まなみ
	(飯) 前澤 克也	赤塩 香
	(長) 大越 真人	関 富志子
	(東) 井出 由賀理	坂原 明子
	(南) 小松 宏恵	町田 和子
	(信) 小林 綾子	青木 陽子
	(中) 今成 江津子	西村 健治
	(信) 吉田 美穂	中澤 香代子
	(市) 市毛 恭子	宮川 さやか

みんなで楽しみながら

小諸市

坂の上小学校

雄大な浅間山の南斜面に広がる長野県東部に位置する小諸市。その玄関口となる小諸駅より約1kmほど上がった所に、児童394名の通う坂の上小学校がある。

84年の歴史ある「梅花教育」の伝統をもとに「正しくゆかしく たくましく」を目指した教育活動に取り組んでいる。

繋がる滑川交流会
今年で三十八回目となる歴史ある「滑川交流会」。小諸市と姉妹都市である富山県滑川市の田中小学校六年生児童とホームステイを通して、交流し合う行事である。PTA交流部が中心となり、PTAの企画、ホームステイ受け入れ家庭の募集、布団の手配を行う。

八月には、田中小学校の児童を迎えて、りんごやブルーベリー狩り、蕎麦打ち体験、懐古園ウォークラリーなど夏の景色を楽しむながら山ならではの体験をする。滑川市へは十月に訪問



田中小を迎えての交流会

する。魚津水族館見学、アクアポイント深遊水体験、夕日の観賞、浜遊びなど海ならではの体験をする。この活動により、PTA役員同士の交流や親睦も深まり、今では、プライベートでも情報交換をするようになった。当時小学生として参加した親も保護者としてまた格別なものである。



おいしいお餅にな〜れ！

訪問をした時、次々に子どもたちとハイタッチをする校長先生、みんなに明るく声をかけるPTA会長さんが印象的だった。PTA、先生方が協力し合い「すべては、子どもたちの笑顔のために」と、自分たちも一緒に楽しんでいる。PTAを盛り上げていきたいという活気が感じられた。

- ◇編集委員
 - ◎小嶋 和好 (栗方丘小長)
 - ◎高野 直樹 (湯谷小頭)
 - ◎柳澤 真美 (櫻ヶ岡中)
 - ◎木下まなみ (福花中)
 - ◎赤堀 香 (安茂里小)
 - ◎関 富志子 (福花小)
 - ◎坂原 明子 (鶴屋田小)
 - ◎町田 和子 (櫻ヶ岡中)
 - ◎青木 陽子 (城東小)



単位PTA訪問 77

地域とともに

長野市

南部小学校



長野駅から東へ広がる古牧地区と芹田地区にまたがる通学区の中心地に、南部小学校がある。昭和46年に開校され、街中でありながら、ケヤキやヒマラヤスギといった樹木に囲まれた緑豊かな学校である。建学の精神である「喜心・老心・大心」の学校教育目標のもと、学ぶことを楽しめる人をめざし、617名の児童が学んでいる。



地域連絡協議会総会

地域連絡協議会
平成十六年、南部小学校地域連絡協議会が設立された。子どもたちの安全を守るため、古牧、芹田の二つの地域と、学校PTAが連携して立ち上

げられた。六月八日、今年度の地域連絡協議会総会が開催された。PTA総務役員が準備から当日の受付や案内、進行など中心となって運営している。この協議会がバックアップし、PTA校外指導部とともに地域の安全マップの作成も行われる。作成のために通学路の点検も行う。もちろん安全パトロールも、PTAと地域が協力して行っている。

PTAふれあいバザー
バザーは「子ども・PTA会員・地域住民の相互交流により、親睦を深めることも子どもたちの社会性を育む」という目的で行われている。そのため、提供品や飲食物などの販売だけでなく、ゲーム、スライム

同好会とボランティア活動
おはなし同好会をはじめ、おやじの会、ママさんスポーツ、軽音楽、国際理解授業、手芸、親子文庫といった活動が盛んに行われている。保護者も生き生きと楽しんでいる。

坂の上バザー
PTA主催の「坂の上バザー」は、バザー部を中心として、PTA役員、おやじの会、子どもたちが協力し合い、毎年秋に盛大に行われる。PTAは、各家庭からの提供品の販売、三年生以上のクラスは、子どもたちが考えたゲーム屋、雑貨屋、お化け屋敷などの出店。おやじの会は屋台を出してバザーを盛り上げています。

坂の上応援団
「おやじの会」会員相互の親睦と交流を基本に、子どもたちのために環境整備や諸行事に協力し、応援することを目的として、平成十三年より活動しているおや

じの会、毎年子どもだけでなく、会員同士が楽しめる様々なイベントを計画し、活動している。夏には納涼会、冬には餅つき大会などをして、親睦を深めている。また、春と秋の環境整備では、お父さんパワーを発揮している。

同好会以外にもボランティア活動がみられる。
草刈や花壇の手入れ、パソコン授業の支援、図書館整備など、地域の方と一緒に学校のために力を貸している保護者もいる。

取材の後、PTA会室を見せたい。役員や同好会の方、ボランティアの方など、毎日のように誰かが来て活動しているそう。黒板の上には「ともに学び、ともに育む」という活動スローガンが掲げられ、二十一年度の日P会長表彰の賞状も飾られていた。「PTAが学校と地域を上手につなげている。そしてみんな仲がよい」と校長先生が話されていた。子どもたちのために活発に活動している姿が見えくるようであった。

今年も田に苗が植えられ、田園地帯には、美しい緑のダムが見られるようになった。私が小さい頃、田舎の田は形も大きき様々だった。実家の一番大きな田は八畝で、小さいのは一畝(二アール)に満たなかった。当時は、それらをすべて人の手で植えていた。

どの家も人手が欲しいので、親戚や近所の人たちに手伝ってもらい、その分を金銭でなく、同様の労働で返していた。このように「結い」と呼ばれる相互互助の仕組みができていた。圃場整備により田が大きくなり、機械化も進んだが、減反政策や外来流入などで、農業の形は大きく変わった。そして、いつの間にか相互互助の仕組みが消えていった。私は、地域社会に「結い」の精神が戻ってくることを期待している。

PTA活動は大きな周りで回転している「結い」なのかもしれない。それぞれの場でご尽力いただいているPTA会員の皆様にエールを送りたい。(K・K)

編集後記
今年も田に苗が植えられ、田園地帯には、美しい緑のダムが見られるようになった。私が小さい頃、田舎の田は形も大きき様々だった。実家の一番大きな田は八畝で、小さいのは一畝(二アール)に満たなかった。当時は、それらをすべて人の手で植えていた。

どの家も人手が欲しいので、親戚や近所の人たちに手伝ってもらい、その分を金銭でなく、同様の労働で返していた。このように「結い」と呼ばれる相互互助の仕組みができていた。圃場整備により田が大きくなり、機械化も進んだが、減反政策や外来流入などで、農業の形は大きく変わった。そして、いつの間にか相互互助の仕組みが消えていった。私は、地域社会に「結い」の精神が戻ってくることを期待している。

私が小さい頃、田舎の田は形も大きき様々だった。実家の一番大きな田は八畝で、小さいのは一畝(二アール)に満たなかった。当時は、それらをすべて人の手で植えていた。

どの家も人手が欲しいので、親戚や近所の人たちに手伝ってもらい、その分を金銭でなく、同様の労働で返していた。このように「結い」と呼ばれる相互互助の仕組みができていた。圃場整備により田が大きくなり、機械化も進んだが、減反政策や外来流入などで、農業の形は大きく変わった。そして、いつの間にか相互互助の仕組みが消えていった。私は、地域社会に「結い」の精神が戻ってくることを期待している。

